

1. 取組を実施した背景(解決すべき地域の課題・目的)

- ・高校中退者等の学習環境をはじめとした環境の整備が不十分である。
- ・高校生世代の状況について把握ができておらず、対応についても仕組みが整っていないし、組織的な対応もできていない。
- ・公立2高校においても毎年10名程度の高校中退者がいる。
- ・昨年度まで研究してきた、学校外での学びの評価についても活かしていきながら、高校中退者を生まない社会を目指したシステムの構築を進める。

2. 実施内容

- ①各校へのヒアリング・・・社会教育課担当と志塾フリースクールで、公立高校2校、私立高校2校、公立養護学校1校で実施。不登校や中退予備軍についての状況の確認と、中退してしまう要因等について聞き取り。
- ②ヒアリングののち、各校の担当の先生と協議の上、アクションプランを作成した。
- ③アクションプランを基に、教員向け研修会の実施、定期的なスーパーバイズ、生徒との個別相談を実施している。

4. 対象者の捕捉のための工夫(例:教育部局・福祉部局の情報連携、アウトリーチ等)

- ・各校へのヒアリングを行政・NPO合同で実施。
- ・教育部局・福祉部局・子ども若者支援センター・志塾フリースクールでの情報共有の場を設けている。

6. 実施により得られた成果・効果

- ・学習支援・・・高校1年生1名、週2回
- ・個別相談・・・高校1年生1名、2年生1名
- ・各高校が不登校及び中退予備軍について相談できたり対応を一緒に考えられる体制ができてきた。
- ・行政内での情報連携をはじめ、学校やNPOとの連携など、組織を越えた連携が生まれてきた。それにより、不登校や中退者への支援の必要性が高まっている。

3. コロナ禍における課題・課題に対する対応方法 (ICTや遠隔授業の活用等)

必要に応じて、ICTを活用した支援が実施できる体制を整えている。

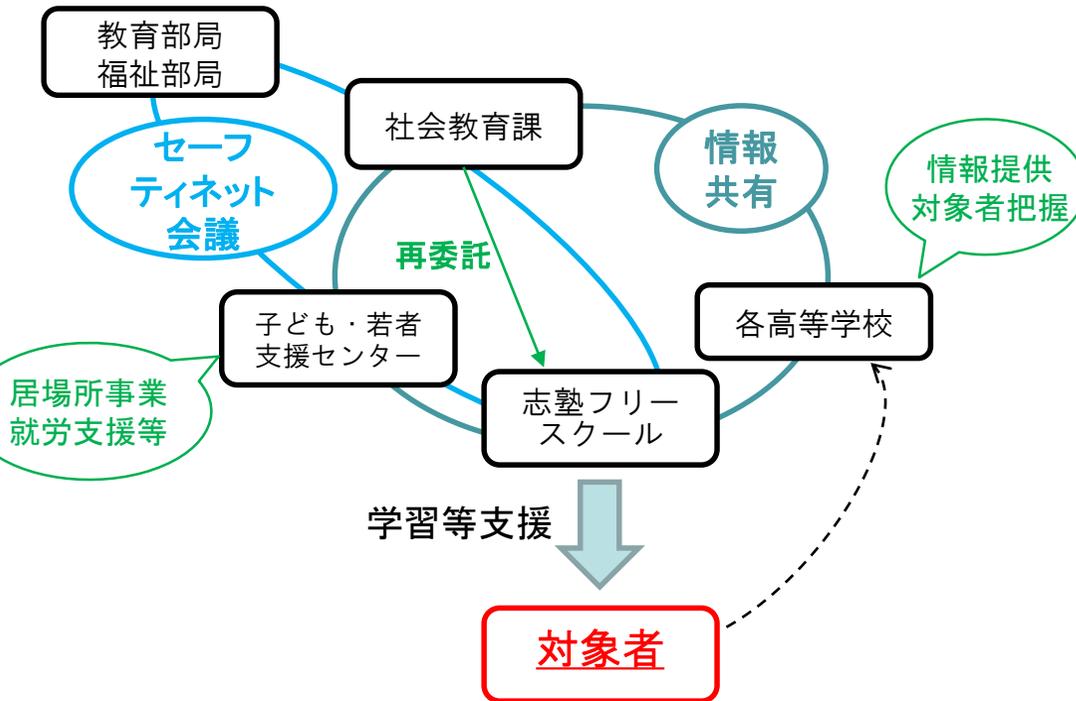
5. 対象者への広報・周知の方法(利用者の集めた方法)

- ・各校からの情報提供
- ・子ども若者支援センターとの情報連携

7. 課題・今後の展開

- ・行政・子ども若者支援センター・志塾フリースクールの情報共有の迅速化と、アウトリーチへの接続による支援対象者の捕捉
- ・事業対象生徒の保護者への支援が必要であり、勉強会の開催を検討している。
- ・学校をはじめ、関係者の事業の理解向上と意識の向上
- ・不登校及び中退者の要因の分析、支援実施者や教員へのアンケート

8. 実施体制



○備考

・R2年度より益田市未来の担い手育成コンソーシアムが立ち上がり、その中で当事業の周知も行った。コンソーシアムの仕組みが整ったことにより、高校や養護学校との連携が強化されたことにより、対象者の把握等も円滑に実施できている。

・子ども・若者支援センターと志塾フリースクールの官民協働の動きが昨年度ごろから強くなったところに、当事業を実施していることから、その協働の動きも活発になっている。



未来の担い手育成コンソーシアム



セーフティネット会議